

平成29年度学生と学長との懇談会  
 本学に対する大学院生からの意見・質問への回答

1 大学院教育（研究、カリキュラム・授業内容等）について	回答
<p>1 総合科学教育部</p> <p>文系と理系による共同研究というあり方について        最近他大学では、理系学部が文系学部と共同研究を行っていると聞きます。徳島大学においてもそのような動きは見られるのでしょうか。</p> <p>私は、文系の学生なので理系のような機材制作やプログラミングなどはできません。しかし、商品の開発・販売をする際に必要となってくる「消費者のニーズ」や地域特有の文化などを調査・把握するスキルは学部と大学院を通じて修得しました。そこで、何かを生み出す際に、ニーズを把握する文系の持つスキルと具体的な商品やシステムを作る理系の持つスキルが協働できる研究・教育の場があるといいのではないかと考えます。</p> <p>例えば、別のアンケートにあった「産業院」は、こうした場になるのでしょうか。</p>	<p>本学では、平成28年度から学部や研究分野を超えた複数の研究者からなる研究集団（研究クラスター）を組織し、新たなイノベーションを創出できる研究を支援する体制を構築しており、異分野融合の共同研究を進めております。</p> <p>『ニーズを把握する文系の持つスキルと具体的な商品やシステムを作る理系の持つスキルが協働できる研究・教育の場』に対応するものとして、COC+事業があり、文系・理系に関係なく学生が協働で取り組む実践力養成型（寺子屋式）インターンシップを実施していますが、事業自体が学部学生を対象としているため、残念ながら大学院生は参加できません。ちなみに同インターンシップは、受入先となる県内の企業等が抱える経営課題等をプロジェクト化し、参加を希望する学生とのマッチングを経てチームを作り、受入先の担当者とともに数ヶ月（通算約30日程度）かけて課題解決に取り組むものです。</p> <p>また、「産業院」ですが、大学の教育・研究成果を積極的に利用し、学外資源との融合による世界の課題を解決する新産業の創出を目的として平成30年度設置に向けて現在準備を進めているところです。ご質問いただいた文系の持つスキルと理系の持つスキルが共同できる場ではありませんが、ここでは学生も共同研究に参画したり、インターンシップによる積極的な企業とのつながり等の教育・研究体験ができる組織にしたいと考えております。</p>
<p>2 総合科学教育部</p> <p>幅広いプロジェクト研究のあり方        プロジェクト研究 において、留学生や社会人以外の学生への負担が大きいように思います。既に自分の調査地を決めて研究を進めている学生にとっては、授業で追加の調査地やプロジェクトを進めなければならないのは、少し負担に感じます。必修科目ではなく、選択科目にすることも検討されても良いかと思えます。</p> <p>その一方で、この授業を機に普段一緒に研究や活動をしない学生と取り組めることは良い点だと思います。</p> <p>様々な分野の学生が集まり1年という期間をどのように使って目標を達成させるのかを計画し、実行する授業内容だと複数の学生が集まって活動報告をすることによって、研究遂行能力を習得できるので、意義があるのではないかと思います。留学生、社会人だとしても修士論文を書くため、授業の中でアカデミックな文章を練習し、まとめることを、共同研究の中で達成できると質の高い授業になるのではないかと思います。</p>	<p>プロジェクト研究Iは、他大学院の二つの主専攻（ダブルメジャー）や正副専攻（メジャー+マイナー専攻）に近い教育カリキュラムとして、分野の異なる教員及び大学院生が専門外のテーマに沿って協働しながら、しかも座学としてではなく実践を通して地域科学を学ぶ科目です。したがって、選択科目では意味がなく、社会における実践という観点からはフルタイムの大学院生は社会人や留学生以上に勉強する必要があり、それを負担と言ってしまうと教育として成立しなくなってしまいます。</p> <p>また、プロジェクトという形式であることから、フルタイムの大学院生に加えて社会人や留学生がいる場合にはそれぞれが背景にもっている能力やかけられる時間など個人の力量に応じて役割分担をするのがむしろ当然で、その差は貢献度として成績に反映されることで、不公平感を払拭するしかないだろうと思われまます。</p> <p>修論作成に向けたアカデミックな文章作成能力の育成は、余裕がある範囲で各グループの指導をお願いしている教員をお願いしたいと思えます。</p>

3 医科学 教育部	<p>大学院博士課程における必修講義を廃止していただきたいです。もしくは、集中講義形式のみとするなど、研究に対する影響が最小限となるようご配慮いただきたいです。現状、半期あたり15回の講義出席が必要で、かつ毎回必ずレポートを提出する必要があることから、研究の大きな妨げとなっています。私の出身大学（研究科）では、博士課程の開講講義数は0となっており、限られた時間のすべてを研究に充てることができるようなカリキュラムになっています。</p>	<p>対面で講義や講演を15回以上受講する科目が1科目ありますが、8月に集中講義を設けております。また、選択科目については、社会人大学院生にも対応できるように、殆どの科目をe-learning化しており、その中から2科目の選択となっています。残りは論文を作成するための研究に対しての科目ですので、できるだけ学生にとって負担の少なくなるように設定しており、講義を廃止する方向では今のところ動いておりません。</p>
4 栄養生命 科学教育部	<p>大学院の授業の多くがe-learningで受講できるため、研究や就職活動と両立しやすく、自分ペースで単位を取得することができました。ただ、e-learningで提出フォームの課題と資料中に記載されている課題が違うことが稀にあったので、統一していただけると嬉しいです。</p>	<p>蔵本地区5教育部においては、e-learningコンテンツをできる限り新しく撮り直すこととしています。今回は、担当の先生からの課題とe-learningコンテンツの内容との齟齬があったようです。今後、チェックをより強化します。</p>
5 保健科学 教育部	<p>必修を減らして、選択科目を増やし、自分の興味のあることや、身につけたいことを学べる様なシステムにしてほしい。</p>	<p>保健科学教育部では、本教育部のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づき、高度な理解力と幅広い知識、実践的な研究能力等を修得させるために、保健学専攻の各領域、分野に関する科目、大学院横断教育科目等を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを適切に配当して体系的な教育課程を編成しています。</p>
6 口腔科学 教育部	<p>大変充実しています。</p>	<p>今後も社会や学生の要望を把握し、充実した大学院教育を提供していきます。</p>
7 薬科学 教育部	<p>・大学院の講義について、実験の予定に合わせやすいようにe-learningの授業がもっとあってほしいと思う</p>	<p>大学院教育課程は、専門知識の体系的な学習、及び研究能力の向上を目的とし、講義、研究のいずれにも偏ることのない教育課程を編成・実施しています。また、対面講義により、学生からの質問を受けたり、議論する場を設けていますので、知識を吸収する場として積極的に活用してください。</p>

研究に際して主体性が認められており、自身で考え、教授からのアドバイスをいただきながら研究を進めていける環境にあるため、卒業後の就職、進学においても強みになるのではないかと感じている。また、私の所属する研究室では、蔵本キャンパスの教育部との合同ミーティングが月に一度開催されており、異なる分野の方々と意見交換をする機会が設けられている。そのため、自身の研究について視野を広く持つことができ、非常に良い環境だと感じている。

講義に関しては、学部の方に、抽選によって受講できるかどうか決まるシステムにあまり賛成できずにいた。施設の問題や、成績をつける講師の負担を考えると、受講人数を制限しなくてはいけないこともわかるが、抽選に落ちたことで単位が足りず、進級するのに苦労した友人もいたため、何か対策をしてほしいと感じた。また、院生が自身の学力向上のために学部生の授業を受講したいと考えた時に、もう少し受講しやすい環境を整えてほしい。また、私の教育部には知的財産管理技能検定の内容に即した講義があり、検定に合格した際には、講義の成績にも加点されるというような講義があったが、このように将来役に立つような資格取得のための講義が増えれば、就職等に役立つのではないかと考える。

受講制限については、現状ではやむを得ない状況です。今後、改善策を検討したいと思います。

講義に関しては、履修の手引きがあります。何か足りないかどうかは、よく読んで把握してください。不明なことがあれば指導教員やクラス担任、または学務係に相談してください。

なお、学部授業はあくまで学部生が優先となるため、担当教員へ受講が可能か確認する等必要な手続きがあります。手続自体は複雑なものではありませんので、履修の手引きに記載の手順を読んでください。